

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課	
施策	19	社会を担う人材の育成・支援	評価 責任者	及川 隆	内線 3710
小施策	19-1	若い世代の活躍支援	評価 シート 作成者	高橋 久幸	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> 若者を取り巻く労働環境は、非正規雇用などの不安定な雇用、求人側と求職者側のニーズが一致しない雇用のミスマッチのほか、地元企業の認知度が低く、県外に就職先を求める若者が多いことなどの課題がある。また、教育や職業訓練などを受けない無業者、いわゆるニートと呼ばれる若者が存在するなどの課題もある。このため在学中からキャリア教育などによる就労観の育成や地場企業を知る機会を設けるなど、若者が社会で活躍できるためのさまざまな支援を行う必要がある。 女性の労働力率は、子育て期に当たる30歳代で低下するものの、就業希望者は多く、非常に大きな潜在力となっている一方で、さまざまな課題があることから、就業や社会参加など個々に支援が必要となっています。 	若い世代に対して、就業や職場定着などに係る情報提供や各種支援を行い、就学等から就業へ円滑に移行できる環境を整える。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	社会で活躍できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数	人	↗	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の抱える問題が複雑化し、長期の支援が必要となっている中で、昨年度より数は減少したものの、一定程度就職に結びつけることができた。 各関係機関や病院との連携が図られており、新規登録者も前年度の132人に対し、本年度は175人と大きく増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士によるジョブトレーニングセミナーの指導を受けるなどして、実際の職場への恐怖感をやわらげることができた。 ボランティア体験の実施が、将来の就職に向けての方向性を見つけることに役立っている。 	
当初値 (H25) 116			R1目標値 140		
			R6目標値 140		
ジョブカフェいわての利用者数	人	↗	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数が目標のおよそ1.7倍となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 県事業との連携によるきめ細かなカウンセリング等により、利用者寄り添った並走的支援ができています。このため、進路決定者を含む就職決定者数は前年度より11.8%増となっている。 	
当初値 (H25) 29,529			R1目標値 30,000		
			R6目標値 30,000		
盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合	%	↗	<ul style="list-style-type: none"> 通減傾向にあった県内就職希望者の割合が前年度比3.8ポイント上昇し、基準年も上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元定着を支援する各種の事業において、県内企業の紹介や研修を実施するとともに、企業側の採用方法に関する意識の変革を促す研修の実施等により、県内企業の魅力が徐々に高校生に伝わってきている。 企業の採用意欲も高い。 	
当初値 (H27) 67.3			R1目標値 70.0		
			R6目標値 70.0		
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 					
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値到達までには至っていない。 ・県外企業の採用意欲が非常に高い。 ・新規学卒者の初任給について、東京を100とした場合、岩手は85.0であり待遇差が顕著である(平成30年賃金構造基本統計調査による)ことから、県外を希望する者が多い。 ・高校生及び保護者が地元企業を十分知らないことから、県内企業が就職先として選ばれない。 					

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 今後も利用者維持、増加に向けて周知・PRを図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ 今後も利用者維持に向けて周知・PRを図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ★ 高校生の地元就職希望を高めるため、盛岡広域圏8市町連携によるインターンシップ事業等により地元企業の周知に努めるほか、地元で働き生活することの魅力の発信を早い段階から行う。 ☆1 高校生インターンシップ事業についての企業への周知強化を検討する。 ☆2 小中学生に対し、早い段階から様々な仕事があり、市内にも多くの企業があることを知ってもらい、将来の職業選択の視野を広げるためのキャリア教育に取り組む。 	